

教育実習レポート（幼稚園）

残暑厳しい中、大阪成蹊大学教育学部（幼児教育コース・初等教育コース）3年生が初めての幼稚園での教育実習に参加しました。両コースの学生とも、2年生の時に、インターンシップを経験しているものの期待と不安を抱きながら、それぞれの実習先へ向かいました。どんな学びをしているのか、学生達にインタビューを行いました。

【幼稚園教育実習での学び】

《先生の姿から学んだこと》

- ・自由な遊びの時間と保育の時間の区別をきちんとつけて園児に対応されている。園児と親しく接することは大切だが、指導者であるという立場を常に意識しておくことが大切である。
- ・この園の方針として、人としての生き方の基礎となる「あいさつ」、ありがとう、ごめんなさい等の感謝と謝罪が心から自然とできる徳育を大切にされているが、どの先生もその指導を徹底してされている。そのため、どの子にもそのような態度が身に付いている。先生方が園の方針をきちんと共有され、連携して同じように実践されていくことで園児達への指導の効果が表われるのだと感じた。
- ・運動会の練習では、園児達が先生から指示されて行動するのではなく、自分から次の行動へ移せるように目印になるものを置く等、環境づくりを工夫されている。
「こうなさい。」と言葉でいうのではなく、園児が次の行動を自分で気付くことができる環境設定をすることが、主体的に行動できる子どもを育てることにつながる。
- ・園児達に話す時の声のトーンを工夫する。大きな声で引きつけたり、逆に小さい声で集中させたりと、話術を身に付けることも教員の資質のひとつである。
- ・園児同士のトラブルがあった時は、しばらく見守り、自分達で解決できそうにないというタイミングを捉えて、声をかける。一方的に良し悪しをつけるのではなく、双方の話をしっかり聞いて自分はどうだったのか、考えさせる。そして、お互いが納得できるような解決策を講じる。

《園児の姿から学んだこと》

- ・部分保育を何度かさせていただいたが、自分が不安、自信がない素振りで園児達に接すると、園児も不安になり、指示がうまく伝わらない。
- ・小さい子どもなのに、結構、実習生の様子をよく見ている、ピアノがうまく弾けなかったり、指示があいまいになったりした時に、「先生、がんばって」と励まされた。人に対する思いやりの心が育っていると感心した。
- ・園児達は、先生の影響を非常に受けやすい。言葉遣い、立ち居振る舞い、様々な先生の言動をまねる。園児達は自分を映す鏡であるということを意識して、自分の言動に配慮しなくてはならない。
- ・遊びの時間等で異年齢の園児達と一緒に過ごす機会が多いが、年下の子は、うんていのうまい年上の子にあこがれ、できるようになりたいとがんばったり、年上の子は、年下の子にやさしく接したりと、異年齢集団の中でずいぶんと子ども達は成長していくことを実感した。

《実習でがんばったこと》

- ・先生からの指示を待つだけでなく、次、どうしたらよいか、また、何か先生のお役に立つようなことができないか、いつも考えて、積極的に行動するようにした。
- ・先生から直接様々なことを教わったが、日々の先生の園児達への関わりや仕事のこなし方等、先生の姿を通しての学びも大切にしたい。
- ・クラスの園児達全員に声かけができるように心がけた。特に、おとなしい子には、自分から接していくようにした。

《反省点・実習で十分できなかったこと》

- ・園児達を引きつける技術（手遊びや語りかけ等）がまだまだ身につけておらず、園児の反応にあわせてしまったりして、園児を集中させることが中々うまくできなかった。先生がされると園児達は、すぐ集中するので、すごいと思った。
- ・ピアノ伴奏では弾くことに必死になって、ピアノを弾きながら園児の様子を見ることが

できず、指導も十分にできなかった。

- ・すぐにできる子や時間がかかる子など、個人差がある中での集団指導をどう工夫すればよいのか、むずかしかった。
- ・個々の園児に接しながらも全体を見るなど、複数のことを同時にしなければいけないという心配りを十分にすることができなかった。

《実習で心に残ったできごと》

- ・園児同士のトラブルでどう対応しようか迷っていたら、年長の子が来てくれて、「こうしたらいい。」と園児同士でうまく解決してくれた。子ども同士でわかりあうことが結構あるようで、見守ることの大切さを感じさせられた。
- ・なかなかお話をしてくれない園児が、しっぽとりゲームをきっかけに、自分から話をしにきてくれたことが、すごくうれしかった。
- ・園児達が実習生の自分に対しても「先生、大好き」と言ってくれて励みになった。
- ・「先生、見て、見て。」とよく声をかけてくれて、ほめてあげると笑顔で喜んでくれた。ほめてもらったり認めてもらったりする中で、園児達は自信をつけていくのだなあ実感させられた。
- ・園児達は、運動会の練習で、始めは全然できなかったのに、練習を重ねていくうちに、結構むずかしいことも段々できるようになっていった。園児の成長していく姿を間近で見ることができ、それに関わることのできる幼稚園教員の仕事は、素晴らしいと思った。

《お世話になった方々に伝えたいこと》

- ・お忙しい中、実習指導記録を丁寧に見ていただいて、細やかなご指導のコメントやお褒めの言葉をいただき、本当にありがたく思った。また、「自分が保育者になった時に生かせるような実習記録ノートにしたらよい。」というアドバイスをいただき、一生懸命書くことができた。たくさんのコメントと共に、自分の宝物として大切にしたい。

・実習生に対しても園児に対するようにいつもやさしくお声かけをしていただき、不安な思いもなくなり、がんばることができた。

・反省会ではいつも具体的なことを教えていただき、たくさん学ばせていただいた。今後の自分に必ず生かしていきたい。

《園児達へのメッセージ》

・幼稚園で教わった「ごめんね。」「ありがとう。」の素直にあやまる気持ちや感謝の心を大人になっても持ち続けてほしい。

・年長さんは、年下のお友達にやさしくしてあげている様子や年中さんや年小さんの「年長さんみたいにいろんなことができるようになりたい。」とがんばっていた姿に感心した。これからも、みんななかよく、やさしい人でいてほしい。

